

令和 2 年 4 月 13 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校園コード（代表者校園の市費コード）
641392

代表者 校園名： 大阪市立加島小学校
 校園長名： 西岡貴史
 電 話： 6309-8641
 事務職員名： 上村美奈子
 申請者 校園名： 大阪市立加島小学校
 職名・名前： 主務教諭・真田穰人
 電 話： 6309-8641

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究（3年目）
2	研究テーマ	子どもたち一人一人の主体的な学びを支える指導に関する研究 ～Q-Uによるアセスメントと授業UDの視点を活用したわかる・できる授業づくり～			
3	研究目的	テーマに合致した目的を端的に記載してください。 ・ Q-Uのアセスメントを基にした主体的な学びを促すインクルーシブ型学級集団づくり ・ 授業UDの視点をもとに主体的な学びから深い学びにつながる授業づくり ・ 通常学級担任と特別支援教育部の協働的な支援体制の再検討と効果的な運営の検討			
4	研究内容	継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 昨年度は、Q-Uの活用によるアセスメントと授業UDの視点に基づく授業改善及び、学級担任と特別支援教育部の協働的な支援体制づくりを行い、その効果に関する検討を行った。その結果、学校生活満足群の割合の上昇と、不満足群の減少が認められ、Q-Uのアセスメントを基に授業UDの視点を活かした授業づくりに一定の効果が確認された。また、教員アンケートの教員の指導力・効力感に関する質問項目に関する肯定的な回答率が上昇していくことから、学級担任と特別支援教育部の協働的な支援体制づくりについても一定の効果が確認された。一方、授業づくりに活かされた授業UDの視点は、視覚化、焦点化、共有化の3つに留まり、習得から活用という上層へのアプローチについては、課題が残った。また、Q-Uのアセスメントと授業づくりの中間にある、主体的な学びを促す学級集団づくりについては、検討が十分ではなかった。 そこで今年度は、研究最終年度として、はじめに主体的な学びを促す学級集団づくりに関するアプローチに着目して実践を行い、その検証を行う。具体的には、Q-Uの結果をもとに集団の成熟度を確認し、学級集団づくりのチェックポイント（河村, 2012）を活用して、①ルール共有、②リレーション形成、③一人一人の支援レベルに応じた指導、④一人一人の承認欲求に応じた指導、⑤学級集団全体の支援レベルに応じた一斉指導を行い、集団の発達過程に応じて自治性を高める。 授業においては、授業UDの基本的な3つの視点である視覚化、焦点化、共有化に加えて、スパイラル化（学年・単元間・教科間の重複を意図）と機能化（日常生活での実用）の2つの視点を取り入れ、主体的な学びから深い学びにつながる授業づくりを行う。そして、主体的な学びのなかで、習得に留まらず、活用する力を身につける深い学びが行われたかを検証する。また、その授業づくりの際に、学級担任と特別支援教育部の協働性を昨年度よりさらに高める。Q-Uの結果に加えて、学級担任による観察と面接を加えた学級全体のアセスメントと、特別支援教育部担当による特別な支援を必要とする児童に関する詳細なアセスメントを組み合わせたうえで授業づくりを行うことで、学級の全ての児童が主体的に学ぶ指導法と教職員間の効果的な連携方法、支援体制づくりの再構築を図り、その効果について検証する。			

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

641392

代表校園

大阪市立加島小学校

校園長名

西岡貴史

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>4月 昨年度までの課題や先行研究の確認 研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討 研究計画の作成 研究組織作成</p> <p>5月 児童の自治力、深い学びに関する児童用尺度と教員用尺度の項目収集・検討・作成 児童観察データ収集、整理</p> <p>6月 第1回質問紙（Q-U、学習意欲、自治力・深い学びに関する尺度（児童・教員）実施</p> <p>7月 研修プログラム作成 研修（公開授業に向けた授業者、指導案の検討など） 第1回質問紙分析 校内研修会「主体的な学びを促す学級集団づくり」</p> <p>8月 研究大会参加（参加後、内容の周知及び研究内容に活用） 事例検討会「1学期の指導について」支援体制づくり</p> <p>9月 校内研究授業 研究協議会（研究成果・課題について協議し改善方法を検討）</p> <p>10月 授業づくりの方法・支援体制の見直し 教材研修（授業の視点を確認、教材研究）</p> <p>11月 第2回質問紙（Q-U、学習意欲、自治力・深い学びに関する尺度（児童・教員）実施</p> <p>12月 第2回質問紙分析</p> <p>1月 研究発表会（参加者アンケート）</p> <p>2月 結果の考察、研究のまとめ</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 Q-Uに加えて、学級担任による観察と面接をもとにしたアセスメントと、特別支援教育部担当による特別な支援を必要とする児童に関する詳細なアセスメントをいかした学級づくりに取り組むことで、子どもが安心して成長できる安全な社会・学校づくりに取り組む。 《検証方法》 活動の事前と事後にQ-Uを実施し、学級生活満足群の5ポイント上昇させるとともに、学級生活不満足群の3ポイント減少させる。</p> <p>【見込まれる成果2】 Q-Uの結果から集団の成熟度を確認したうえで、学級集団づくりのチェックポイント（河村, 2012）を活用して、学級集団の発達過程に応じた指導を行うことで、社会性の向上及び、主体的な学びを促す学級の自治力向上に取り組む。 《検証方法》 活動の事前と事後に児童アンケートを実施し、「クラスのみんなと自分たちで学習を進めることができる」の項目においてを5ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果3】 授業UDの基本的な視点である視覚化、焦点化、共有化に加えて、スパイラル化と機能化の視点を取り入れて授業を計画し、主体的で深い学びを意図した授業実践を行い、学力向上に取り組む。 《検証方法》 活動の事前と事後に児童に対してアンケートを実施し、「深い学び」の尺度（三隅・沖林・高橋, 2020）得点を5ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果4】 通常学級担任と特別支援教育部が協働して、一人一人の児童のアセスメントと授業づくりを行うとともに、支援体制の検証を学期末に一回行うことで、特別支援教育を充実させる。 《検証方法》 活動の事前と事後において、教員アンケートを実施し、「担当する児童一人一人の児童理解ができている」という項目で5ポイント上昇させる。</p>

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

641392

代表校園

大阪市立加島小学校

校園長名

西岡貴史

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果5】 Q-Uの結果からアセスメントをして、主体的な学びを促す学級集団をつくる方法や、授業UDの視点をいかして授業をつくる方法に関する研修を行い共通理解を図ることで、教職員の資質能力の向上を図る。 『検証方法』 活動の事前と事後において、教員アンケートを実施し、「深い学びを意図した授業づくりができる」という項目で5ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果6】 研究大会や研修に参加して最新の知見・情報を収集する。さらに、先駆的な授業・研究を行っている教員・研究者を招聘して研修を行い、助言を得たうえで授業づくりの方法や支援体制の見直し改善することで、学校の活性化、検証・改善のサイクルの充実を図る。 『検証方法』 観察・面接・質問紙(Q-U)から得た情報を統合したアセスメントとそのアセスメントに応じた支援体制づくりを年に2回行い、PDCAサイクルを確立させる。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和3年2月22日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="409 765 1442 833"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 3 年 1 月 29 日</td> <td>場所</td> <td>加島小学校多目的室</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>学校教育相談学会発表予定　日本授業UD学会発表予定</p>	日程	令和 3 年 1 月 29 日	場所	加島小学校多目的室
日程	令和 3 年 1 月 29 日	場所	加島小学校多目的室			
8	代表校園長のコメント	<p>継続した3年目の研究である。昨年度の成果と課題を分析して、より深化した研究目的と内容としている。昨年度は、教職員の主体的な取り組みによって、授業UDの視点を活かした一定の授業改善の成果を得た。残された課題として、深い学びへつながる授業づくりと、協働的な支援体制を挙げているが、それに向けて取り組む意思一致は職員間でできている。また、主体的な学びを促す学級集団についても、Q-Uの活用を研究してきた強みを活かしてより一層の成果を生み出すことが期待できる。</p> <p>教職員個々の学びと協働した学びの場をつなぎ、加島小学校の集団づくりと授業づくりの実践前進に向けて取り組む職員の決意があり、研究支援の申請をさせていただきたい。</p>				